

第23回大学教育研究フォーラム
参加者企画セッション〈話題提供②〉

エビデンスに基づいた成長プロセスの可視化 とカリキュラム開発

2017年3月20日(月)

杉原 亨

関東学院大学

高等教育研究・開発センター 専任講師

sugihara@kanto-gakuin.ac.jp

関東学院大学の教学施策

- 2015年3月に10年後の基本戦略とアクションプランの策定を行い、全学的な教育の質向上に向けた多くの施策については、高等教育研究・開発センター（以下、高等研と表記）が推進に向けて取り組むこととなった。
- 高等研は、「全学的な教育支援体制に関わる諸施策の企画及び開発をするとともに、組織的に教育内容及び教育技法の質向上を支援すること」を目的に、2013年4月に設立された。

高等研におけるFD支援の取り組み

□全学的な教学関係(マクロFD)

- 神奈川大学・横浜国立大学・横浜市立大学とのFD活動の連携(包括協定の締結)
- 3ポリシー(Diploma Policy / Curriculum Policy / Admission Policy)の再策定支援
- カリキュラムマップ導入支援
- 初年次教育向けe-ラーニングシステムの導入
- ラーニングコモンズの開設
- キャリアデザイン・インターンシップ科目の拡充、地域と関連した「KGUかながわ学」の開設 など

□教育手法の向上(ミドル・ミクロFD)

- 各種セミナー(高等教育セミナー等)の企画運営
- 新任教職員研修の充実化(4日間)・学部におけるFD研修実施の支援
- 学生による授業改善アンケートの全面的見直し及びWEB化、中間アンケートの導入
- 公開授業の実施・推進
- 年報・ニュースレターの発刊 など

今後に向けて取り組むべきこと

□教育の質保証に向けた全学的な教学マネジメント体制の整備(2重のPDACサイクル:次頁参照)

➤カリキュラム等の教育改革(大きなPDCA)

➤個々の授業改善(小さなPDCA)

⇒とりわけ「学習成果の検証」が課題

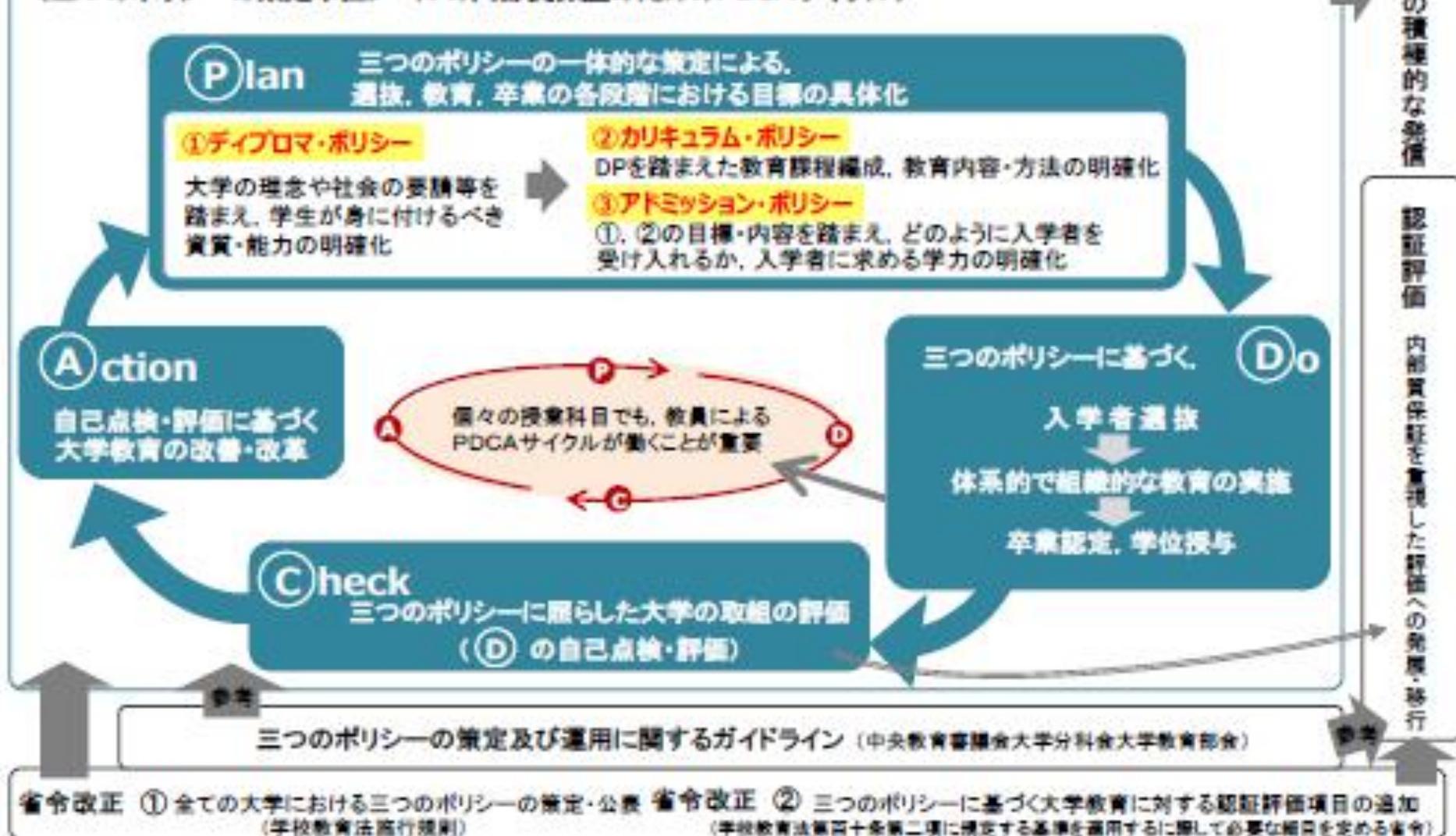
□学内での優れた教育実践(Good Practice)を、全学で共有する「場づくり(機会)」の創出。

➤暗黙知になりがちな個々の教育活動を、「気持ちよく」形式知にする仕組みを考える。(Tipsを提供する教員のインセンティブを考える必要がある)

「三つのポリシー」に基づく大学教育改革の実現(イメージ)(案)

三つのポリシー …… 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者の受入れ方針(アドミッション・ポリシー)

＜三つのポリシーの策定単位レベルの内部質保証のためのPDCAサイクル＞



共同研究の目的

□学生の成長プロセスの可視化を通じて、教育の質向上に必要な要因を明らかにし、教育現場における実践へ反映することを目的とした。



共同研究の全体像(2016年度)



成長プロセスの可視化への動き

<①研究会での議論>

【問題意識の共有】

- ・関東学院大学の学生の実態
- ・成長している学生の可視化の方法

<②アセスメントデータ

(大学生基礎カレポート)の分析>

【定量手法による実態把握】

- ・学びへの意識が向上した学生の特徴
- ・成長学生のイメージ像の共有

<③学生インタビュー(第一次)>

【質的手法による実態把握(次頁参照)】

- ・エビデンスに基づいた成長学生の抽出
- ・インタビューによる成長要因の抽出

(次年度に向けて)

- ・初年次キャリア科目を基軸とした更なる分析
- ・今年度のインタビューデータの再整理(良い授業・良い先生など)

<⑤学生インタビュー(第二次)>

【成長学生の要因の精緻化】

- ・大学入学後を重点をおいたインタビュー設計 ⇒ 夏休みでの学習モチベーションの低下など新たな発見

<④インタビュー結果の考察>

【成長学生のモデル図づくり】

- ・インタビュー結果を整理し、成長要因をモデル化。
- ・入学後の成長要因について不明瞭(課題)

参照：第一次学生インタビュー概要

- 目的：初年次で成長しているKGU学生の実態把握
- 対象：2015年度秋学期「KGUキャリアデザイン基礎Ⅰ」受講生の内、当時の1年生75人。(学内における「人に関する研究倫理審査」承認済み)

【インタビュー学生の抽出方法】

1. アセスメントによる成長の確認

- ・2015年4月と12月段階でのアセスメント結果の伸びを確認
 - 2015年4月「キャリアデザイン入門」で1年生全員に「大学生基礎力レポートⅠ」を実施。
 - 2015年12月「キャリアデザイン基礎Ⅰ」で受講生対象(1年生人)に「大学生基礎力レポートⅡ」を実施
- ⇒基礎力ⅠとⅡを受検した75名の結果を次の観点(学生像)で分析し伸びを確認した
「①大学への適応、②学びの面白さ、③インテンシブ(集中、つらくても頑張る)、④目的意識・成長への道筋、⑤授業・カリキュラムへの目的理解」

2. キャリアデザイン基礎Ⅰのミニレポートのチェック

- ・授業内の各回のミニレポートをチェックし、優れている学生を特定

3. キャリアデザイン基礎Ⅰ担当教員による観察・所感

- ・担当教員による受講生の授業態度、グループ枠への取組みなどの評価・観察結果の共有

⇒上記3つの観点により、20名の成長していると見込まれる学生を抽出

【インタビュー概要】

- 実施：2016年6月～7月
- 人数13人(人間環境学部3人、栄養学部6人、教育学部2人、経営学部2人)
- インタビュー方式
 - ・(質問者)2人対(対象者)1人に半構造化インタビューを実施
 - ・インタビュー時間は「90分」
 - ・主なインタビュー項目
 - モチベーションの変化(学習面・課外活動)
 - 進学動機
 - 学習の状況、熱心に取り組んでいる授業、良い先生
 - 将来のキャリア
 - 人間関係 など

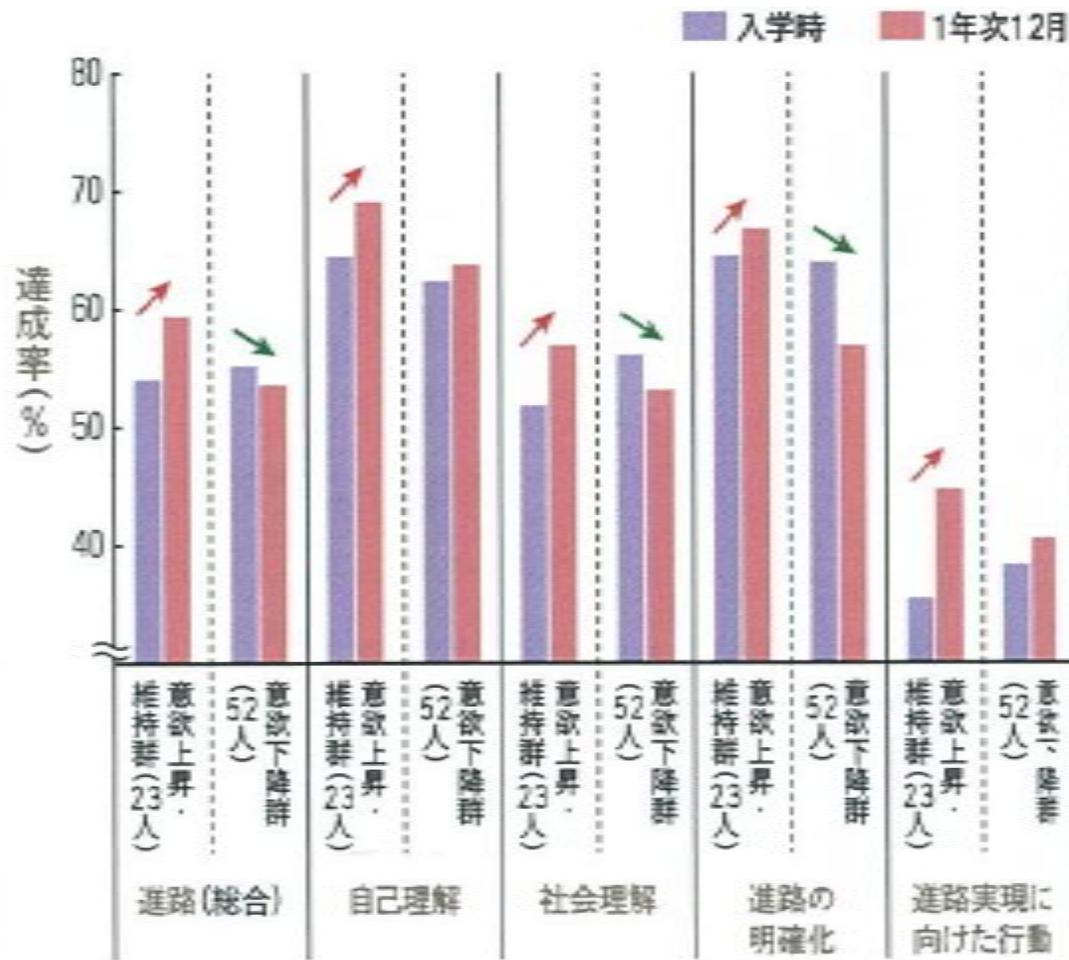
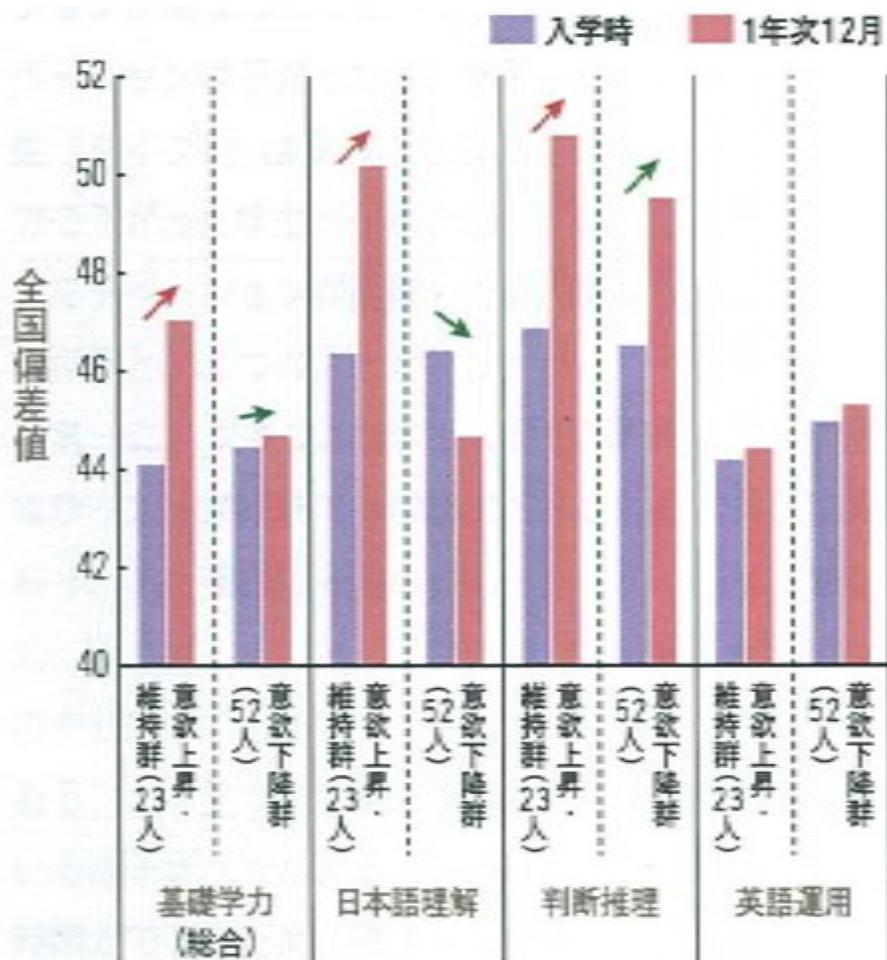
研究の中間報告(一部事例紹介)

詳細は3月末の報告書に記載されていますが、本日は一部先行して研究成果を紹介します。

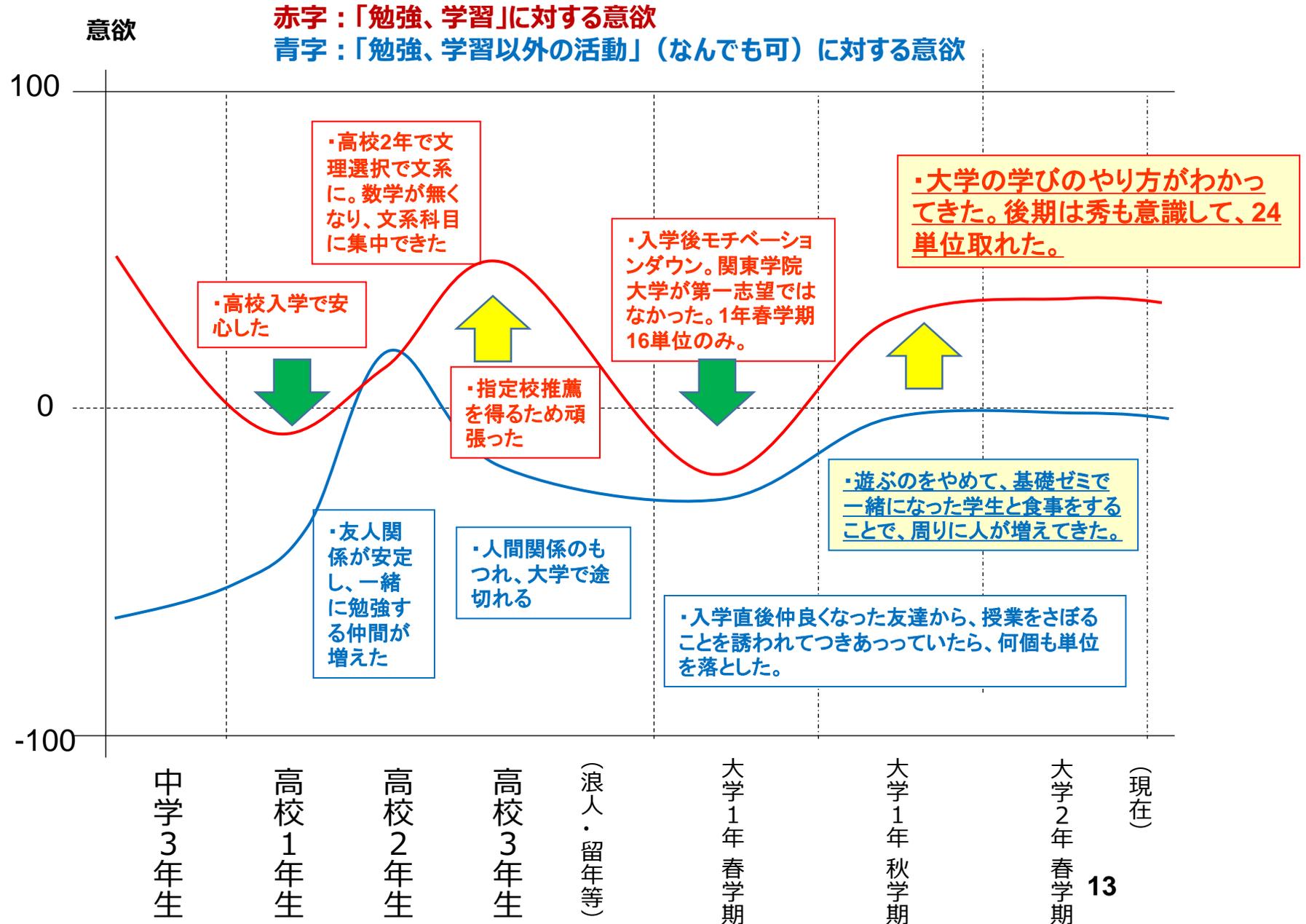
- アセスメントデータ分析(学びへの意識)
- モチベーション・チャートから見た学生の特徴
(学生インタビュー調査)
- 学内での教員研修会(研究成果の活用事例)
- 初回授業の実態把握

アセスメントデータ分析

学びへの意識が向上した学生は「基礎学力(日本語理解・判断推理)」「進路に対する意識と行動」が上昇している



意欲曲線：これまでの「意欲」の変化をグラフにしてください。



学内での教員研修会 (FD)

アセスメントやインタビュー調査から見えてきた新入生の実態を共有し、教学施策につなげるためのワークショップを実施した。



成長学生の可視化研究で見えてきたこと(一部)

□学習のフィードバック・サポートの重要性

- 提出課題への手厚いレスポンスや、学習支援の充実によるモチベーションの向上

□大学型の学びへのスムーズな移行への対応

- 受験勉強と違い、能動的に日々学ぶ必要がありレポート作成など初めての経験も多い

□困難を乗り越える・役割を任された経験

- 部活や学園祭、受験勉強などの経験が成長の鍵となっている。

⇒これらを大学全体の教学施策やFD、学習成果の質保証などに、どのように反映させていくか？(研究と実践)

今後の研究プラン

□成長学生の可視化研究

- 大学入学後での成長にフォーカスをして、初年次春学期における変化を、キャリア科目の授業内で追跡し、インタビュー調査などを実施する。
- インタビュー調査等から見えてきた「良い先生」「良い授業」に関して要素を整理し、学びのモチベーションとの関係などを考察する。

実践への展望（研究知見の活用）

□データ・エビデンスに基づいたFD・SDの拡充

- 次年度の教育実践力向上セミナーでは「データから見た本学学生の特徴（FD・SD）」を開催する。
- 初回授業の実態・実践など、教学施策・授業改善の検討材料として活用する。高等教育セミナーでの共有等。

□1年生春学期のキャリア教育科目での検討

- 1年生夏休みに学習モチベーション低下を踏まえて、最終回に夏休みでの過ごし方について、ワークを交えた授業案を検討中。

ご清聴ありがとうございました。

参考：初回授業の出欠・履修登録状況

- ・履修登録者の約4割が初回授業を欠席している。
- ・初回出席した学生の9割は履修登録を行う。

■表4-1 初回授業の出欠・履修登録状況

			履修登録者 (人数)	初回出席				初回欠席		科目分類	開講日時
				出席	履修登録	未履修	履修登録率	履修登録	初回欠席率		
				A=(C+E)	B	C	D	C/B	E		
共通科目	語学	英語コミュニケーション論	5	5	4	1	80.0%	1	20.0%	選択	全・2講時
		資格英語 (工業英検)[C]	37	33	26	7	78.8%	11	29.7%	選択必修	全・2講時
	地域志向	KGUかながわ学 (スポーツ)	437	301	263	38	87.4%	174	39.8%	選択	水・2講時
	キャリア	KGUキャリアデザイン 基礎I[B]	308	212	201	11	94.8%	107	34.7%	選択	水・3講時
専門科目	法学部	地方自治政策論	63	25	22	3	88.0%	41	65.1%	選択 (※行政コースのみ選択必修)	火・1講時
	経済学部	国際経済学Ⅱ	73	26	26	0	100.0%	47	64.4%	選択 (※国際経済コースのみ選択必修)	木・4講時
合計			923	602	542	60	90.0%	381	41.3%		

参考：初回授業の欠席理由

- ・他の科目に出席していたから約2割
- ・初回はガイダンスで出なくて良いと思った
＋他に用事があったから4割弱

■ 図4-1 初回授業欠席理由（初回欠席者のみ回答）

